

「母の日」のはじまり

Q. 「母の日」はどこで、どんなにして始まったのですか？

A. 「母の日」はイギリスとアメリカで別々にはじまりましたが、日本ではアメリカの「母の日」が行われています。

《ポイント》

「母の日」は中世にキリスト教の大斎節の 4 番目の日曜日に村の住民が司祭と連れ立って母教会に参詣する日でした。

1. イギリスの「母の日」

教区司祭の娘、ミス ペンズウィック スミスが 1913 年に、「母教会」と「家庭の母」を結びつけた「母の日」の運動を始めました。

この運動では大斎節の第 4 日曜日に、子供たちは教会で母を敬うことを約束し、母に小さな花束を贈りました。それから、子供と両親は家族の墓に花を捧げました。1934 年ころから、この儀式が商業化されて「母の日」となりました。



2. アメリカの「母の日」

南北戦争のあと、ミス アンナ ジャービスの母は戦争によって生じた亀裂を修復するために「母親の友情の日」を設ける運動をしていました。母の死の 1 年後、5 月の第 2 日曜日に母親の生涯を祝福する儀式が行われました。その後、娘のジャービスは合衆国政府に「母の日」を公式に制定するように働きかけました。幸いなことに、1914 年にウッドロウウィルソン大統領がその問題を布告し、5 月の第 2 日曜日が公式に「母の日」に決まりました。

日本の「母の日」はアメリカの行事にしたがっています。

鉢植えダイアンサスの育て方

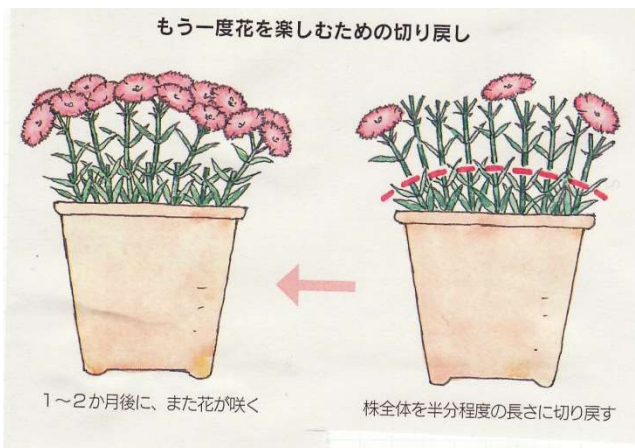
Q. 「母の日」に子供からもらったダイアンサスの鉢植えですが、花が咲き終わったらどうすればよいのですか？

A. 草丈の半分くらいに切り戻すと、1～2ヶ月後にまた花が咲きます。元気な芽があれば挿し芽で苗を増やせます。

《ポイント》

切花にするカーネーション、花壇に植えるトコナツ、セキチクもダイアンサスの仲間です。よく花を咲かせるのには日に当てることが大切です。

1. 切り戻し

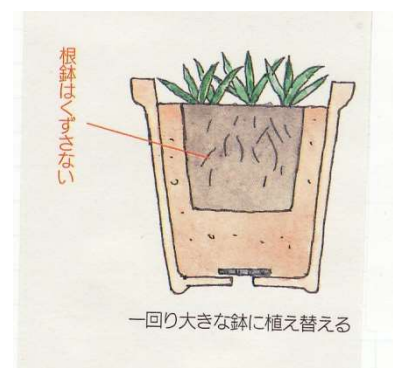


‘テルスター’ やトコナツの系統など四季咲き生の品種は、1～2ヶ月後にまた花が見られます。花が終わった6月から7月に、株もとの芽を残すようにして、莖を半分程度に切り戻しましょう。

直射日光が好きなダイアンサスですが、夏は西日を避けて涼しいところへ移しましょう。暑い時期は肥料も施さない方がよいでしょう。

2. 植え替え

1年に1回、9月中旬から10月上旬に、1回り大きな鉢に植え替えます。ダイアンサスは過湿に弱いので、水はけのよい土を使います。市販の鉢花用土に赤玉土を3割程度混ぜた用土に植え付けます。



3. 挿し芽

元気な芽を採って挿し芽すれば苗が増やせます。ダイアンサスの株は長持ちしないので春か秋に挿し芽して株を更新するのがよいでしょう。7～8cmの芽を折りとって下葉を取り除き、パーミキュライトかパーライトに挿します。挿した後、十分に水を与えて明るい日陰に置くと3週間くらいで発根します。